

探究に関する発表への評価基準（環探研基準 2022）

<使い方>
学校の事情にあわせて、適宜こちらを改変して使用してください

R4.2.14ver.

	観点/評定	4	3	2	1	結果 /4点
①	研究の動機 テーマの設定 (Problem)	研究の「動機」や「テーマ設定」の画方が明確で、根拠や説得力がある。 加えて、過去の先行研究も踏まえている。	研究の「動機」や「テーマ設定」の画方が明確で、根拠や説得力がある。	研究の「動機」や「テーマ設定」のどちらか一方が明確で、根拠や説得力がある。	研究の「動機」と「テーマ設定」が不十分	4
②	仮説の設定 研究の計画 (Plan)	「仮説設定」と「研究計画」の画方が明確で、根拠や説得力がある。 加えて、独創性や信頼性の高い検証方法などが明記されている。	「仮説設定」と「研究計画」の画方が明確で、根拠や説得力がある。	「仮説設定」や「研究計画」のどちらか一方が明確で、根拠や説得力がある。	「仮説設定」と「研究計画」が不十分	4
③	データの収集 (Data) データの解析 (Analysis)	「データ収集」と「データ解析」の画方の精度が高く、適切なグラフや図表が用いられている。 加えて、データ等の妥当性（再現性）が検証されている。	「データ収集」や「データ解析」の画方の精度が高く、適切なグラフや図表が用いられている。	「データ収集」や「データ解析」のどちらか一方の精度が高く、適切なグラフや図表が用いられている。	「データ収集」と「データ解析」が不十分	4
④	考察から結果を導く (Conclusion) 結果をふまえた振り返り (Reflection)	「考察」と「振り返り」の画方が、論理的・客観的・多面的である。 加えて、新たな課題に対しても検証・考察されている。	「考察」と「振り返り」の画方が、論理的・客観的・多面的である。	「考察」や「振り返り」のどちらか一方が、論理的・客観的・多面的である。	「考察」と「振り返り」が不十分	4
⑤	成果の発表 質疑の応答	「成果発表」と「質疑応答」の両方が、論理的で堂々としており説得力がある。 加えて、聞き手を惹きつける工夫がある。	「成果発表」と「質疑応答」の両方が、論理的で堂々としており説得力がある。	「成果発表」や「質疑応答」のどちらか一方が論理的で、堂々としており説得力がある。	「成果発表」と「質疑応答」が不十分	4
					合計 (計20点)	20